

令和4年度草津市障害児（者）自立支援協議会の議事報告（抜粋）

回数・日時・場所	参加者数	概要・テーマ・参加者の意見など
<p>【第82回全体会】 令和4年 5月25日（水） 9:30～11:30 草津市役所2階 特大会議室</p> <p>【全体会の目的】 年度当初に<u>主に各構成機関の長（または実務者）</u>に対して当協議会の理解と、福祉の地域づくりの協働を推進する。</p>	<p>（機関） 60/125 （人数） 71人 （スタッフ含む）</p>	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自立支援協議会の設置要綱、設置要領、機能、構成図、構成機関 令和3年度の活動の報告と令和4年度の事業方針及び内容 草津市障害児（者）自立支援協議会、基幹相談支援コーディネーター事業、相談支援部会、子ども支援部会、相談支援体制検討プロジェクト、コロナプロジェクト、障害福祉課、委託事業（孤立化防止事業、委託相談）、その他（施設連絡協議会） 新規構成機関の紹介や希望事業所からの告知 <p>【参加者の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者は特に情報が届きにくく孤立化する傾向があり、孤立化防止事業に絡めて働きかけが必要。相談体制検討プロジェクトには、「児」から「者」へ移行するにあたってはよく知ってもらっている相談員に継続してほしい。相談体制について継続した検討をしてほしい。また、生活介護事業所は全体的に増加しているが、強度行動障害者に対応できる事業所とのマッチングが難しい現状がある、などの意見が出た。
<p>【第83回定例会】 令和4年 7月8日（金） 9:30～11:30 草津市役所2階 特大会議室</p> <p>【定例会の目的】 地域課題、協議会の活動、地域のトピックスの共有 <u>主に各構成機関実務者</u>に対して当協議会への参画を要請する。</p>	<p>（機関） 44/126 （人数） 63人 （スタッフ含む）</p>	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 前回（全体会議）に対する意見や質問、アンケート結果について 令和4年度の湖南圏域サービス調整会議の予定 基幹コーディネーター事業、相談支援部会、委託事業（孤立化防止事業）、団体（施設連絡協議会）の報告 【トピックス】「草津市相談支援体制検討プロジェクトの報告」 報告者：河尻朋和氏（副プロジェクトリーダー） <ol style="list-style-type: none"> 令和2～3年度にかけて検討し令和4年度でまとめた内容の報告。 （内容）草津市の相談支援体制の現状と課題。相談支援体制の3層構造の推進。相談支援体制の充実に向けた取り組み、専従の相談支援専門員の確保の目安等。 各分野からの報告 <ul style="list-style-type: none"> 障害児の相談支援体制の課題について（おひさまはうす相談員） セルフプランの利用者への支援（はたらこっと相談員：主に就労支援事業に特化した相談支援事業所） 指定特定相談支援事業所の現状（歩歩、ほっとココ相談員） 親の立場からの相談支援事業への意見（育成会保護者） 新規構成機関の紹介や希望事業所からの告知 <p>【参加者の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所の実態や課題が良く分かった。まだまだ現状の相談事業は正直ケースワークが弱いと感じる。ネットワークの形成の仕方、制度の理解、本人及び家族状況の理解など、相談員の激務の現状も聞いてい

		<p>るが専任の相談支援専門員の確保に向けての具体策を知りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと活動ができるためには相談員の専任のための予算化、報酬の在り方を考えてほしい。 ・自立支援協議会でたくさんの意見が出るようになってきて良い傾向と感じている。意見交換をする中でお互いの立場などを理解する場になってほしい。
<p>【第84回定例会】 令和4年 9月21日(水) 9:30~11:30 草津市役所2階 特大会議室</p>	<p>(機関) 56/129 (人数) 63人 (スタッフ含む)</p>	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回(定例会議)に対する意見や質問、アンケート結果について 2. 基幹コーディネーター事業の報告:自立支援協議会のホームページ、社会資源の検索の紹介 3. 相談支援部会、団体(放課後等デイサービス事業)の報告 4. 新規構成機関の紹介や希望事業所からの告知 5. 【トピックス】「障害者支援と災害対策」 講師:草津市危機管理課出前講座 橋本啓嗣氏 <p>(1) 障害者支援で災害時の課題や質問を事前にアンケート実施</p> <p>(2) 講師の話の概要</p> <p>近年気候の変動変化があり、雨の降り方が変わってきている。水害、土砂災害が増加。土砂災害は水害と異なり目視による確認、発生場所、時刻予測が難しい。危険性を認識しにくいいため、避難が遅れ、人命にかかわる被害が発生しやすい。水害、土砂災害に備えること、避難確保計画の取り組みを行う。避難確保計画とは水害や土砂災害の発生する恐れのある場合のために利用者の円滑かつ迅速な避難を図るために必要な事項を定めた計画を草津市では令和5年度から複数年かけて必要な人に策定する予定。</p> <p>【アンケートの結果・参加者の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族は災害時の避難支援計画に対する関心や期待度はとても高かった。一方、危機管理課が進める個別避難計画(制度としての計画)策定は、災害ハイリスク地域の限定した対象者。 ・個別避難計画の対象でない地域の利用者も相談支援専門員は利用者や家族と避難場所や、避難経路、避難支援者などの具体的イメージについて話し合っておく必要があることが分かった。 ・また、危機管理課は避難所(福祉避難所)に行くことだけでなく、安全が確保されるのであれば自宅や親せき宅など自ら選択した場所の決定や日頃から地域の交流を図り支援者を広げて措くことなどを紹介。自助、共助、公助の取り組みの整理。 ・精神障害者等対人関係が苦手な障害特性や、様々な理由で近所と交流が持ちにくい場合、近所の人を支援者になってもらう要援護者の登録条件はハードルが高いという意見が出た。 ・地域の民生児童委員の訪問や地域の支援者との日頃からの交流、個性や状況が異なるそれぞれの障害理解の推進も今後に向けた課題。

<p>【第 85 回定例会】</p> <p>令和 4 年 11 月 8 日（金） 9:30～11:30 草津市役所 2 階 特大会議室</p>	<p>（機関） 56／129</p> <p>（人数） 63 人 （スタッフ含む）</p>	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回（定例会議）に対する意見や質問、アンケート結果について 2. 新しく開業した事業所の紹介 3. 活動報告 基幹コーディネーター事業の報告：障害の課題別懇談会の報告 部会報告：相談支援部会、子ども支援部会の報告 その他の機関：放課後等デイサービス事業の取り組み 4. 希望事業所からの活動の告知 5. 【トピックス】「障害者虐待の防止」 話題提供者：基幹相談支援コーディネーター 草津市虐待防止センター（障害福祉課） <p>(1) 話の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者虐待防止の概要、ライフステージと法の範囲、法の目的、定義、類型、考え方、早期発見、早期通報の重要性、障害福祉にかかわる職員の役割、研修の促進。「草津市障害者虐待対応マニュアル（令和 3 年 4 月）」と、「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き（令和 4 年 4 月）」の一読と研修の徹底を周知。 ・草津市の障害者虐待件数とその傾向の報告。虐待通報件数は増加傾向、施設従事者と擁護者の虐待件数は半々。その中で施設従事者の通報は増加傾向。虐待通報の後調査を実施して会議にて認定を行うが、特に身体的虐待が多い。擁護者は虐待の認識が乏しく支援者からの助言があっても改善しにくい現状もある。（しつけと虐待の違い等の認識） <p>(2) 事例についてグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力は虐待であるという大前提を認識した。組織として虐待を防止する対応の重要性を認識した、等の意見が出た。
<p>【研修会】</p> <p>令和 5 年 1 月 20 日（金） 9:30～11:30 草津市役所 8 階 大会議室</p>	<p>（機関） 48／130</p> <p>（人数） 55 人 （スタッフ含む）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 初めに <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域生活支援拠点整備事業の 5 つの事業 (2) 研修会事前アンケートの概要 3. 支援の現場からの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・相談員の立場からの緊急対応の経験：ほっとココ ・精神障害者支援の相談員の立場からの緊急対応に必要な対応：風 ・通所事業所を利用者の家族等の緊急対応の事例：きらら北山田 ・医ケア児の家族の立場から：発達支援センター 4. お話テーマ「甲賀地域ならではの地域生活支援拠点等の整備」 サブテーマ：我が町に合ったらいいな。地域生活支援拠点整備とは？ 先に始まっている甲賀圏域の取り組みを聞いてイメージしてみよう。 <p>【話の内容】</p> <p>国が進める地域生活支援拠点の整備事業は令和 4 年度は湖南 4 市でプロジェクト会議が 3 回程度招集され、検討が重ねられてきた。湖南 4 市の施</p>

		<p>設整備については面的整備として既存の施設を活用して5つの事業の内、特に緊急対応の体制と相談員の配置から整備していく予定。今回は令和2年度よりいち早くこの事業に取り組んでいる甲賀圏域の実践例を聞いた。研修会前に構成機関にアンケートを実施。そのアンケートの回答では家族等の事情により緊急対応を行った経験があるとした支援者が25名あり、関心の高さが見えた。</p> <p>甲賀圏域では人口15万人の福祉圏域で、障害関係では50年を超える歴史を持つ児童・成人の入所施設を抱え、知的障害児・者に対する用語の歴史が古い地域であり、約30年にわたる甲賀地域障害者自立支援協議会を軸に官民共同で障害のある方々の地域生活支援の仕組みを作ってきた。</p> <p>そこで障害種別ごとに4つの委託相談支援にセンターを軸に拠点機能を位置付け、10年以上の支援の経験のある相談員（拠点マネージャー）を2名配置した。さらに緊急対応、体験の場と機会の確保を行い、市町単独事業で予算的補填を創設した。</p>
<p>【第86回定例会】 令和5年 3月20日（金） 9:30～11:30 草津市役所2階 大会議室</p>	<p>（機関） 40/131 （人数） 49人 （スタッフ含む）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 前回の研修会のアンケート結果の報告 3. 委託事業・部会・プロジェクト等の報告 <ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援コーディネーター事業の報告 ・相談員部会の報告 ・子ども支援部会の報告 ・新型コロナウイルス感染対策プロジェクト終結の報告 ・放課後等デイサービス事業、医ケア児にかかる実務者会議の報告 4. アドボケーター事業の委員の推薦について 5. お話テーマ「発達障害の理解について（入門編） ～発達障害の特性の理解から始めよう」 滋賀県発達障害者支援センター 相談支援員前田智仁氏 <p>【話の内容】</p> <p>発達障害は、生まれつき持っている脳の特徴。物事の見え方や考え方が違う。本人の怠慢や家族のしつけが原因ではない。小学校1年生で発達障害の支援ニーズの割合は、10人に1人とも言われている。</p> <p>発達障害の特性は一人一人違いがあり、まずはどんな特性があるのかを知ることが大切。例えばとして文字が歪んで見えるという事のモデルの体験、音や人の声が著しく敏感に聞こえてきて困る等の具体例を示し困りごとに共感する。</p> <p>発達障害の特性に合わせたかかわり方のポイントは「困った人」ではなく「困っている人」と受け止める。自分ではどうすることもできない特性に対して叱責や避難を受けどうしたらいいのかわからず混乱している。</p> <p>困っている人への支援の第一歩はその困難さに気づいてあげること。（困難さの背景には必ず理由がある）等</p> <p>実施後のアンケートでは発達障害の理解につながったとの声が聞けた。</p>